

②基町地区におけるまちづくりの推進  
 ▼基町第1アパートから第16アパートは、もうすぐ耐用年限を迎えるので、早めに方向性を出さないといけないのではないかと。  
 (3)広島駅南口広場の再整備等  
 ▼新しいバスエリアは今よりも多くのバスが流入して、計画であるが、バスの本数や時間などの計算やシミュレーションを行い、交通渋滞をさらに引き起こすことがないようにしてほしい。



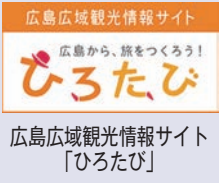
広島駅周辺(令和2年度撮影)

▼広島駅南口のタクシー乗り場については、工事中はCブロック横の道路を一方通行にし、仮設乗り場を設置できないか、早急に協議してほしい。  
 ▼比治山線に新たに電停を設置する場合は、道路が2車線から1車線になる可能性が大きいので、交通渋滞が起きないように早めに取り組んでほしい。  
 ▼駅前大橋ルートは的場町と京橋町の間に電車が通ることになるため、両町のまちづくりについても考えてほしい。

▼事業を計画するに当たっては、概算といえどもしっかりとした事業費を出してほしい。  
 (4)都心における土地の高度利用等  
 ▼中心市街地に増えている平面駐車場に建物が増えてもらうためには、仕組みを作って、地域の実情を調査する必要があるのではないかと。  
 ▼容積率を引き上げれば、古いビルも建て直しやすくなるので、都市再生緊急整備地域の周辺にも適用できるように見直してほしい。

▼多目的スポーツ広場は、日陰になる場所の確保と子育て世帯や高齢者にも配慮した施設してほしい。  
 ③総合交通戦略の改定  
 ▼10年後の交通実態は加速度的に変わってくると思うので、先駆的、統計

的に分析している文献なども併せて比較検討しながら、先進的な分析をしてほしい。  
 ▼都心部の交通量はかなり多いため、どう抑制するのかという考え方が基本にない、今後の交通政策として問題があるので、住民のニーズも把握しながら、きめ細かな公共交通ネットワークの形成に取り組むことが必要ではないか。  
 ④観光の振興  
 ▼観光を立て直していくためには、現場の声を聴いて、何をやらなければならないのかをもう一回見直していくべきではないか。  
 ▼新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、将来の観光分野をどのように展開していくのか、ゼロベースで考えてみる必要があるのではないか。  
 ▼SNSは経費が掛からない媒体なので、もっと活用し、観光政策として発信力を高めたい。  
 ▼中小企業融資の枠について、景気が厳しい中で観光振興の観点から、どういう形であれば観光業の経営を続けていくことができるのかを考えてほしい。



広島広域観光情報サイト「ひろたび」

安心社会づくり対策  
 特別委員会

|      |      |
|------|------|
| 委員長  | 八軒幹夫 |
| 副委員長 | 伊藤昭善 |
| 委員   | 川口茂博 |
|      | 岡村和明 |
|      | 平野太祐 |
|      | 森島秀治 |
|      | 大野耕平 |
|      | 竹田康律 |
|      | 金子和彦 |
|      | 海徳裕志 |
|      | 水野考  |
|      | 田中勝  |
|      | 石田祥子 |
|      | 近松里子 |
|      | 桑田恭子 |
|      | 藤井敏子 |
|      | 若林新三 |



委員長 八軒幹夫

【調査項目】

- ①災害に強いまちづくり
- ②高齢者福祉の推進
- ③子ども・子育て支援
- ④地域コミュニティの活性化

各調査項目に対する委員の意見は次のとおりです。

①災害に強いまちづくり  
 ▼避難の声掛けは、町内会・自治会を中心に行ってもらう必要があるが、加入率が下がってきていることから、加入促進に向けて関係部局と協力体制を作してほしい。  
 ▼広島県は土砂災害警戒区域が全国で最も多いことから、土砂災害に特化した教育を行うとともに、小学5、6年生や中学生が地域の防災の担い手となるジュニア防災士という仕組みを取り入れてほしい。  
 ▼避難所の生活環境について、炊き出しなどに使用する器具等を備蓄したり、小学校の給食施設を有効活用することで、温かい食事が提供できるよう検討するとともに、避難が長期間となる場合には、空調設備の整備に取り組んでほしい。  
 ▼避難行動要支援者を支援するための個別避難計画については、福祉専門職とも連携強化を図りながら、作成を促進してほしい。

②高齢者福祉の推進  
 ▼学生、一人暮らしの高齢者、町内会・自治会未加入者を含めて、誰一人取り残されないよう、防災情報の周知に努めてほしい。  
 ▼高齢者地域支え合い事業について、求心力のあるリーダーが存在しない地域の実情を丁寧に取り扱い、関係課が連携して、それぞれの地域に合うようなアドバイスをしてほしい。  
 ▼特別養護老人ホームの整備は、計画どおりに進んでいないので、介護職員の人材確保のための処遇改善と併せて、最重要課題として取り組んでほしい。  
 ▼地域包括ケアシステムの取り組みにおいては、介護する方にも配慮しながら進めてほしい。  
 ▼若年性認知症については、有病者数を把握し、社会から孤立させないための居場所や相談できる場所を増やすなど、対策を進めてほしい。  
 ※高齢者施策推進プランは、令和3年2月に策定されました。

③子ども・子育て支援  
 (1)第2期広島市子ども・子育て支援事業計画の策定  
 ▼児童虐待防止対策は、行政だけではなくなかなか手の届かないところもあるため、民間やNPOの力も借りながら、相談支援体制の充実を図ってほしい。  
 ▼児童相談所には、医師、保健師、弁護士が既に配置されているが、児童虐待相談・通告の件数は増加傾向にあるので、さらに職員を増員するなど、職員体制の充実を図ってほしい。  
 ▼市民意識調査で、本市を子育てしやすいまちと思わない理由が明らかになっているため、その辺りを重点的に取り組んでほしい。  
 ※この計画は、令和2年3月に策定されました。

(2)広島市幼児教育・保育ビジョンの策定  
 ▼公立幼稚園においても、3歳児保育や預かり保育を実施するよう検討してほしい。  
 ▼保育士の処遇改善について、とりわけキャリアアップに見合う処遇の改善に努めてほしい。  
 ▼小学校教育との円滑な接続のため、幼稚園や保育園で実施しているアプローチカリキュラムの取り組みを推進してほしい。  
 ※このビジョンは令和2年3月に、実施方針は令和3年3月に策定されました。

(3)第3次広島市男女共同参画基本計画の策定  
 ▼政策の立案や決定の場に女性を登用していくことについて、市民の中で望む人の割合が増えてきているので、審議会委員や市職員の管理職への女性の登用に向けて、市の組織が一体となつて、数値目標を達成できるように。  
 ▼交際相手からの暴力、いわゆるデートDVについては、これまであまり注目をされず、相談しにくかったり、情報を入手しにくかったりするので、対策を強化していく必要があるのではないかと。  
 ▼民間企業の男性の育児休業取得が進んでいないことについては、業種や職種ごとにさまざまな要因があるので、改めて掘り下げてほしい。  
 ▼第2次の計画に掲げるほとんどの目標が達成できていないので、第3次の計画においては、多くの目標が達成できるように取り組んでほしい。



子ども・子育て支援事業計画(概要版)



デートDV防止啓発リーフレット

▼町内会・自治会等実態調査の調査結果については、結果の理由について繰り返し分析し、課題を整理して、今後の方向性に結び付けてほしい。  
 ▼町内会・自治会は任意団体であるものの、地域活動において重要な役割を果たしているというところを、市組織の中で周知徹底を図ってほしい。  
 ▼今後開催される有識者・関係者懇談会については、テーマごとに分科会を設置するなど、丁寧に議論してほしい。  
 本委員会で調査・研究した項目は、自然災害が頻発化、激甚化する中、防災力の向上を図ること、高齢者一人一人が、いきいきと暮らせる社会を実現すること、全ての子どもを社会全体で支える、子どもと子育てに優しいまちを実現すること、持続可能な市民主体の地域づくりを進めることなど、今後、市民が安心して社会で暮らせるまちづくりを進める上で、非常に重要な課題です。  
 委員各位の貴重な意見を真摯に受け止め、これらの課題に対する取り組みを推進していただくよう、強く要望します。

※この計画は、令和3年3月に策定されました。  
 ④地域コミュニティの活性化  
 ▼小学生に対して、地域防災における共助の重要性や、共助において町内会・自治会が担う役割について、地域の防災リーダーと一緒に教えてほしい。  
 ▼市民一人一人の役割、地域の役割、行政の役割をはっきり示さないと、地域住民も高齢化している中で、助け合うことはできないのではないかと。  
 ▼地域団体を今のままの形で充実させていくのは難しい面もあるので、例えば若い人たちが地域の中の担い手として活動しやすいような仕組みを構築していくことも必要なのではないか。  
 ▼地域団体は統合すべきであり、そのために、有識者・関係者懇談会において、地域団体の役割を整理した上で、検討してほしい。